

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4075800310		
法人名	社会福祉法人 内野会		
事業所名	グループホーム 鴨生の里		
所在地	〒820-0206 福岡県嘉麻市鴨生693-1	Tel 0948-42-2790	
自己評価作成日	平成23年10月3日	評価結果確定日	平成23年11月16日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

共有スペースとなっているホールは吹き抜けになっており自然な光が差し込み開放感のある造りになっている。明るく家庭的な雰囲気の中で入居者一人ひとりの能力を活かし職員は出来ることは見守り、困難なことは一緒にいき、日常生活を共にしながら支援を行っている。法人内の介護老人保健施設が近隣にあり、地域の交流と共に外部の方々との交流ができるように支援している。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

幹線道路に面し、百円ショップや病院、他商業施設等、利便性の良い場所にグループホーム「鴨生の里」がある。玄関を入ると吹き抜けの高い天井から、自然な光が差し込み、家庭的で温かみを感じられる。各居室にはトイレ・洗面台・冷暖房・ベットも完備され、近くの同一法人経営の老人保健施設と、共同で、地域との連携・交流も活発で、ホーム長と職員は、「住み慣れた地域で生きがいとやすらぎのある暮らし」の実践に取り組んでいる。特筆すべきは、開設7年を経過して、利用者の要介護度の変化が少ない点など、リハビリを取り入れた自立支援は、驚くほどの効果に結び付き、ホームの取組みに対する利用者・家族の信頼は厚く、地域との信頼関係も始まり、地域密着型グループホームとして、今後が期待されるグループホーム「鴨生の里」である。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 北九州シーダブル協会		
所在地	福岡県北九州市小倉北区真鶴2丁目5-27	Tel 093-582-0294	
訪問調査日	平成 23年10月31日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができて いる (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「住み慣れた地域との寄り添い、人と人との寄り添いを大切に生きがいとやすらぎのある生活を支援します」理念の下、その人らしく生活でき楽しみや喜びがあり又、安心した生活が送れるよう職員は努めている。	温かい家庭的な雰囲気の中で、利用者が地域と触れ合いながら持っている力を活かし尊厳ある生活が出来ることを、わかりやすい言葉で表した理念である。職員は、利用者の意思や自主性を尊重し、必要な支援をしている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域内の歌謡コンサートへ参加したり外部よりおやつ作りやお手玉のレクリエーションに来て頂いている。法人内施設の行事にも参加し交流を図っている。	地域の催しに参加すると共に、ホームで講演等を計画する祭はホーム便りで呼びかけ、双方向的な交流に取り組んでいる。退所した利用者の家族が、お手玉のボランティアとして訪れたり、高校生が体験学習で利用者と交流を深める等、継続的な交流がなされている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で利用者状況などを報告し認知症の方の理解につながるよう努めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、入居者の状況やサービスの実際を報告し、意見交換を行いサービスの向上に生かしています。	利用者、家族、市職員、介護相談員をメンバーに開催している。ホームの取り組みや近況報告をし、メンバーから意見や要望、助言等を積極的に聴いている。時には専門の講師を招き学習会も実施している。	運営推進会議は、地域の理解と支援を得る為の貴重な会議である。町内会長や民生委員、老人会会長等地域の代表が委員として、参加することで地域との交流と協力関係を築くこともできる。参加を促す働きかけを期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の高齢者介護課、介護相談員から会議に出席して頂き、情報提供を頂いたり相談にのって頂いております。	運営推進会議に、行政の担当職員が会議に参加し、意見交換、情報提供、助言等をしている。介護相談事業を活用し、利用者、家族の相談に対応する等、連携を密にしている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	利用者が自由に出入りできるよう玄関は開放しており安全面に配慮しながら一人ひとりの行動を見守っている。勉強会を実施し、防止に努めています。また、マニュアルを作成し、ケアを統一できるよう努めています。	道路に面した門、玄関や出入り口は、昼間開放し鍵を掛けていない。居間兼食堂や、くつろぎの間、居室の入り口は全てキッチンや事務室から見渡せる造りで、職員はさり気なく見守りながら、利用者一人ひとりの行動を把握し、拘束することなく安全を確保している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会を実施し、防止に努めています。また、マニュアルを作成し、ケアを統一できるよう努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	資料を保管しており必要時には、家族へ概要の説明等の情報提供、手続きの支援を行うようにしている。	権利擁護に関する資料を揃え、必要と思われる利用者、家族に説明している。現在、制度を活用している利用者はいないが、職員は研修会や学習会に参加し、いつでも必要な時に支援が出来る体制である。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は利用者と家族に十分に説明を行い、不安や疑問が起こらないように注意している。解約時にも理解、納得して頂けるように努めている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会時、入居者の健康状態やその他連絡を行うその際に家族からの意見、要望など気軽に話をして頂けるよう努めている。その時の意見等は職員で検討し反映し、いけるように努めている。又、介護相談員の受け入れ、外部の相談窓口を紹介している。	家族の意向を聴くことが出来るよう利用料は、振込みにしていない。また、家族交流会もバイキング形式にし、気軽に参加出来るようにする等、家族の意向や希望を聴く機会を多く設けている。出された意見は職員間で検討し、出来るだけ運営に反映できるように努力している。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々の申し送り、ミーティングの場で意見交換を行いながら、出された意見やアイデアを検討、反映に努めている。	毎日のミーティング等を利用して、職員の意見を積極的に聴いている。個別の面談で得られた意見や旅行先等で、出された意見も大切に運営に反映させるよう努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の努力や勤務状況を把握するとともに評価を行っている。人員配置などの職場環境の整備や職員の資格取得について奨励している。		
13	9	○人権尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員採用については、性別や年齢、経験有無等に制限は設けていない。職員の経験を活かし豊かな生活を利用者へ提供できることから、幅広い年齢層を採用している。	職員の採用は、性別や年齢の制限は設けていない。定年はあるが働く意欲のある人は、経験や知識を活かし働き続けることが出来る。資格取得を目指す職員には、勤務のローテーションを考慮する等の支援をしている。休憩時間は、利用者と一緒に過ごしている。ゆっくり寛げる時間の確保を検討中である。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	入居者に対する人権は、介護するにあたって十分に尊重している。外部研修に参加し職員に周知を図り、啓発活動に取り組んでいる。	人権に関する外部研修に積極的に参加し、参加した職員が伝達研修をホームで実施する等、知識の共有を図っている。また、法人内研修でも必ず人権に関して取り上げている。	
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	可能な限り外部研修に参加し、研修後は報告書を提出、伝達を行っている。定期的な法人内の会議参加やGH内の勉強会を行い職員の資質向上を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修に参加し、他事業所との交流の機会を持っている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面談において本人、家族、関係者から心身の状況などを把握し、本人とのお話をしながら馴染みの関係を作り安心感をもって頂くようにしている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前には家族に面会をし、アセスメントを行い状況、要望等を把握し、信頼関係の構築に努めている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族との面談時、必要な支援を見極め、状況を見ながら対応している。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人が出来ることは見守り、困難なことは一緒にいき、日常生活を共にしながら関係を構築している。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	必要に応じて家族に連絡を取り、家族と連絡を取り合い、協力しながらのケア提供に心掛けている。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方との関係が途切れぬ様、地域行事や施設行事への参加、家族との外出を行っている。	馴染みの美容院や行きつけの店等、利用者がこれまで大切にしてきた関係が途切れることがないよう支援している。墓参り等、利用者の希望があれば家族に伝え同行してもらおう等、支援に努めている。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し、楽しい会話関わり合いが持てる雰囲気をつくり、支え合えるような支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	電話などにて相談に応じ関係を断ち切らないように努めている。又、退所された家族がお手玉レクリエーションのボランティア講師として来られている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の行動や会話の中から意向を汲みとるように努めている。意思表示が難しい方には行動や様子を観察し、本人の意向把握に努めている。	利用者に担当職員を決め、話しやすい雰囲気作りに努めている。利用者の気持ちに寄り添い、自発的な言動があるまで、側で見守っている事もある。職員の異動が少なく利用者との信頼関係が築かれている事も思いや意向の把握を容易にしている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族、関係者などから、生活歴・生活環境等の情報収集を行い把握している。また、日常生活の中で利用者本人に聞きながら対応している。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	バイタル記録、個人記録、介護日誌から把握できるように記録し、申し送りで情報の共有ができるように努めている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の意向、職員の意見を反映し、心身状態をふまえた本人本位の介護計画作成に努めている。	家族の訪問時に、家族の希望を聴き、担当職員を中心に日々の関わりの中で把握した情報を、職員間で検討し、介護計画に反映させている。毎月モニタリングを行い、3ヶ月毎に計画を見直し、現状に即した介護計画であるか確認をしている。	
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の介護記録を職員が共有し、ケアの統一や介護計画の見直しに活かしている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われず、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者や家族の状況を把握し、それに合わせたサービス提供が行えるよう、他の機関の協力も得ながら努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	介護相談員やボランティアを積極的に受け入れている。法人内施設の行事などに参加することで、地域交流の支援を行っている。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関(内科)の週1回の往診診療、歯科往診を受けている。利用者や家族の要望で、以前からのかかりつけ医への通院も、家族の協力を得ながら行っている。	利用者や家族の希望を大切に、かかりつけ医への受診支援をしている。家族の協力を得ることもあるが、勤務を調整し、職員が病院へ同行をしている。週1回の往診や歯科医の訪問診療、職員である看護師による健康管理等、医療、看護体制も充実している。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	非常勤看護職員を配置しており、入居者の健康管理や状態変化に応じ相談しながら支援を行っている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先の病院への情報提供、面会を通じての情報収集を行い家族、病院関係者との密な情報交換に努めている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合の指針を作成し、家族にも説明をしている。現在のところ該当するケースには至っていない。	重度化や終末期の対応について指針を作成し、家族に説明して同意を得ている。利用者の状況に変化が見られた時は、その都度家族や関係者間で話し合いを重ね、納得して、方針を共有し、利用者の重度化に向けた支援をしている。	
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急マニュアルを作成している。マニュアルを基本とし臨機応変かつ迅速に対応できるよう日頃から意識づけを行っている。		
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身に付けるとともに、地域との協力体制を築いている	防災設備の設置業者、防火管理者の主導の下、避難訓練を定期的に行っている。また、近隣にある法人内の介護老人保健施設にも、緊急時に応援を要請できる体制を整えている。	年に2回防災設備業者、防火管理者主導のもと、避難訓練を実施し、消防署に報告し、助言をもらっている。職員は救命講習を受け、近くの法人内施設との緊急時の応援体制も整えられているが、近隣住民が参加しての避難訓練の実施はしていない。	非常災害時には、地域住民の協力が不可欠である。運営推進会議のメンバーに地域代表に入ってもらう等、住民参加の訓練まで繋げる働きかけが望まれる。又母体法人との連携で、食料の備蓄もされているが、ホーム内に非常食や飲料水の備蓄も期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者のプライバシーを守る為に職員全員が守秘義務に努めている。また、個人記録は目につきにくいところに保管している。	利用者の誇りやプライバシーを、損ねないように、声かけや口調に配慮し支援している。個人記録類は事務室の鍵のかかる所に保管し、ボランティアも守秘義務について説明する等、個人情報の保護には、細心の注意をはらっている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者の思いや希望を聞き出す努力をしている。また、職員間で情報を共有し、声掛けなどの工夫を日々模索している。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の体調に配慮しその日、その時の気持ちを尊重しできるだけ個別性のある支援をしている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問理美容にカットをしてもらっている。整容のさりげない支援と、希望者には行きつけの理・美容室への送迎などを支援している。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	可能な入居者には職員と食事の準備、下膳、洗い物などをお手伝いして頂き、食事をしている。	利用者が、最も楽しみにしている食事を満足してもらえるよう、希望を聴きながら献立を作成し、食材の買出しから、調理、盛り付け、片付け等も利用者の出来る範囲で一緒にしている。山菜ご飯等、季節を感じる料理に、配慮し、利用者や家族に好評である。	
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	必要時は老健の管理栄養士とも相談しながら、本人の状態に合わせ食事形態の工夫をしており、職員が摂取量を記録している。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	本人に合わせて、声かけ・見守り・介助を行っている。歯科治療の必要な方には往診してもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	本人の様子や態度から排泄のサインを感じ取り、さりげなく声かけをしたリトイレ誘導をしている、利用者の出来ることは見守り、自立につながる様支援している。	利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、さりげなく声かけをし誘導する等、トイレでの排泄を大切に支援している。居室全てにトイレが設置されていることも、利用者が人目を気にすることなく自分のペースで出来、結果として排泄の自立に繋がっている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄記録にて排便状態の把握に努め、バランスの良い食事と体を動かす事で自然排便が出来るよう支援しています。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的な入浴曜日は決まっている。午前・午後とに分け、本人の希望や体調に沿うように時間は柔軟な対応に心がけている。また湯の温度も希望に沿うように配慮している。	入浴日は決めているが、利用者の状況や希望に沿って柔軟に対応している。午前と午後に入浴時間を分け、ゆっくり入浴を楽しんでもらい、時間が掛かっても、自立支援の一貫ととらえ、職員は見守りながらも必要以上に手を出さないように心がけている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼間はレクリエーション活動等で日中の活動性を高め、夜間の睡眠に繋げている。又、室温、衣類、布団などの調整を行っている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者一人一人の薬の処方箋を職員が理解し、服薬の支援をしている。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	「生きる喜び」を持ち日々楽しく暮らせるよう、一人ひとりのできる事を見つけ一緒に家事・レクリエーションを行っている。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	地域行事、法人内施設への催しに参加している。年間行事に出かけ楽しめるように努めている共に家族の協力により外出などにも出掛けている。	ホームは車の通りが多い道路に面している為、日常的な散歩など難しい面もあるが、食材の買出し等機会を捉え戸外に出るようにしている。年間行事に買い物や花見など数多く計画し、近くの法人内施設の訪問等、利用者の希望に沿って支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者の状況に合わせ、本人で管理できる方には少ない金額のお金を所持して頂いている。買い物の際も本人で支払いが出来る方には行ってもらっている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者の近況報告を家族の来訪時や電話で行っている。本人の希望があれば、取りついでいる。また、家族宛ての年賀状にメッセージを書いて頂いている。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者の作成した書道、貼り絵や、季節に応じた飾り付けを掲示している。照明や音も入居者が快適に過ごせるように配慮している。	民家を思わせる造りのホームは、木や和紙が至る所に使われ、優しく温かく落ち着いた雰囲気漂っている。くつろぎの間は、ソファや畳の間も設けられている。対面式のキッチンでは職員が利用者と会話を楽しみながら食事の準備をしている。共用スペースは季節感を取り入れ、居心地の良い共用空間である。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関ホールは吹き抜けになっていて、開放感のある空間を演出している。ソファ、畳、中庭の木製ベンチで入居者同士で過ごせるようにしている。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には入居者の使い慣れた家具や洋服、日用品など基本的に自由に持ち込んでもらっている。また仏壇を持ち込まれている入居者もいる。	居間兼食堂を囲むように配置された居室は、窓に障子をはめられ、壁と一体化したドアを開けると、トイレと洗面台がある。収納スペースも広く、スッキリとしている。使い慣れた家具の上には、利用者手作りの作品や馴染みの品が飾られ、居心地よく過ごせるような配慮がされている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の状態に合わせてできることは見守りしながら、必要な目印をつけたり自由に行動できるよう安全確保を行っている。		